

第4章 現況課題に対する後期計画の方向性

4.1 自転車施策に関わる現況課題と後期計画の方向性

これまでの取組の評価や課題をはじめ、自転車を取り巻く環境の変化、本市における動向を踏まえて導き出された「自転車施策に関わる現況課題」と、課題解決に向けた「後期計画の方向性」を次ページのとおり整理します。

2. 現行計画の取組と評価

【だれもが“安全”に自転車が使える】

○自転車走行空間の整備

⇒整備により事故が抑制され有効な手段であるが交差点の事故が多い

○交通安全教室、広報啓発活動の実施

⇒交通安全教室の実施や道路交通法の改正などにより、ルール・マナーに対する意識が向上

【だれもが“快適”に自転車が使える】

○自転車の駅の設置

⇒サイクリングルート上のコンビニエンスストアなどと連携しながら、自転車利用者をサポート

○駐輪場の対策

⇒JR宇都宮駅西口の駐輪場増設に伴い、利用者数が増加

⇒バス停付近へ駐輪場を整備し、サイクル&ライドを促進

⇒中心市街地で放置自転車が発生

【だれもが“楽しく”に自転車が使える】

○レンタサイクルの充実

⇒貸出箇所の増設とともに電動アシスト自転車を導入(H23)

○宮サイクルステーションの運営

⇒スポーツバイクのレンタルやセミナー等の実施により利用者が増加

○自転車マップの作成

⇒ジャパンカップコースや市内観光ルートを設定し、自転車利用者の周遊を促進

○サイクリングロードの整備

⇒整備計画を策定し、田川・山田川サイクリングロードなどの整備に着手

【だれもが“健康とエコ”に自転車が使える】

○自転車モニター事業の実施

⇒職員を対象にスポーツバイクを活用した自転車通勤を試行的に実施

3.1 自転車を取り巻く環境の変化

○自転車利用に関する法制度・枠組みの整備

- ・「自転車利用環境創出ガイドライン」策定
- ・道路交通法の一部改正

○自転車の利用ニーズの変化と利用拡大

- ・安全意識、健康意識、環境意識の高まり
- ・国内の自転車販売台数の伸び
- ・東日本大震災以降の自転車利用者の増加
- ・超高齢社会の到来に伴う利用拡大

○自転車利用に対する要望

- ・ルール・マナーの面で特に危険

3.2 本市における動向

○本市の主な上位・関連計画

- ・NCC形成ビジョンの策定
- ・LRTの導入をはじめとした公共交通ネットワークの構築
- ・第10次宇都宮市交通安全計画の策定
- ・宇都宮市観光振興プランの策定

○自転車に関わる本市の動向

- ・ジャパンカップサイクルロードレース来場者の増加
- ・宇都宮ブリッツェンの躍進と地域貢献
- ・日本一の自転車専用通行帯の整備延長

導き出される現況課題

安全	<input type="checkbox"/> 自転車レーンの整備により安全性の確保を図っているものの、事故の多い交差点などでの 走行空間の連続性の確保 が求められている <input type="checkbox"/> ルール・マナーを認識している利用者は多いものの、約3割が並進や逆走等で違反しており安全利用の向上が求められている
快適	<input type="checkbox"/> 自転車の駅をこれまで44箇所設置してきたが、市民意識調査では認知度が低く、利用向上の対策が必要である <input type="checkbox"/> 本市が目指すNCC形成ビジョンやLRTの導入を見据えるとともに、自転車に対する利用意識の高まりを踏まえ、 交通結節点の強化 が求められている。特にJR宇都宮駅周辺の駐輪場においては、定期利用の需要が高く収容台数が対応できていないため駐輪環境の向上が必要である <input type="checkbox"/> 中心市街地においては放置自転車が慢性的に発生し、歩行者などの安全な通行を阻害しているため駐輪環境の向上が必要である
楽しく	<input type="checkbox"/> レンタサイクルについては、普通自転車の利用率は高いものの、電動アシスト自転車の認知度が低く、利用促進の対策が必要である <input type="checkbox"/> 宮サイクルステーションの利用者は増加しているものの、メンテナンスサービスなどのさらなるサービスの向上が求められている <input type="checkbox"/> サイクリストの意識調査では、長距離走行の割合が高く、市内のみならず 広域的に連続したルートの創出 が求められている <input type="checkbox"/> サイクリングロードを利用するサイクリストの割合が高く、 連続的な整備 が求められている
健康とエコ	<input type="checkbox"/> 本市の交通分担率は自動車の割合が高く、環境負荷の低い移動手段の利用が求められている <input type="checkbox"/> 移動手段として運動効果も高いことから、自転車を活用した健康づくりを促進する必要がある
その他	<input type="checkbox"/> 「自転車のまち宇都宮」の認知度は約半数であり、さらなる自転車のまちの推進には周知・PRが必要である

強化する取組の視点

自転車レーンがつながる

自転車と公共交通がつながる

自転車で都市や観光地がつながる

自転車利用で健康とエコにつながる

以上を踏まえて後期計画では... **新たな施策の柱として、自転車で“つながる”を設定します**

4.2 施策体系の改定

現況課題に示す「自転車走行空間の連続性の確保」や「自転車と公共交通との連携強化」などの課題に対応するためには、各施策の横断的な連携強化が必要であることから、自転車と公共交通をつなげることで自転車の利用拡大を図るとともに、都市や観光地が自転車で行きながら広域的に自転車で周遊できる環境づくりを推進する新たな施策の柱“つながる”を設定し、他の4つの柱とも連携しながら、積極的な事業展開を図ります。

